



## 「在宅限界を高めるサービス」と「認知症対策」が重点か

～介護給付期分科会で令和3年度介護報酬改定の議論が始まりました～

◆6月1日、社会保障審議会介護給付費分科会がおよそ2ヵ月ぶりにオンラインで開催され、来年度の介護報酬改定に向けた検討が開始されました。

診療報酬と同時改定となった平成30年度介護報酬改定では、①地域包括ケアシステムの推進、②自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現、③多様な人材の確保と生産性の向上、④介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保、の4つの項目を柱として改定が行われました。令和3年度の改定においても、今後議論を進める中での変更は想定されるとしながらも、①地域包括ケアシステムの推進、②自立支援・重度化防止の推進、③介護人材の確保・介護現場の革新、④制度の安定性・持続可能性の確保をテーマとして議論される予定です。

地域包括ケアシステムの推進については、生産年齢人口が減少する中であっても中重度の高齢者や、医療・介護双方のニーズがある高齢者に必要なサービスが切れ目なく提供されるよう、地域の医療・介護関係者が連携し、取組みを進めていくことが重要との基本姿勢を明示、そのための具体策を検討する際の論点として、「在宅で生活する者の在宅限界を高めるための在宅サービスなどの在り方」、「これまでも取組みを進めてきた介護保険施設での対応の在り方に加え、高齢者向け住まいにおける更なる対応の在り方」、「人生の最終段階においても本人の意思に沿ったケアが行われること」、の3項目が挙げられています。

また、昨年6月に取りまとめられた「認知症施策推進大綱」を踏まえ、在宅の中重度の要介護者を含め、認知症への対応力を向上するための取組等の検討も課題に据えられました。

分科会当日の議事では、新型コロナウイルス感染症の流行による影響や感染予防対策の評価等も大きなテーマとして議論されたとのこと。今後の議論が注目されます。(事務局)

### 新しい生活様式下での熱中症対策を

～厚労省からも「熱中症予防行動のポイント」発出～

◆本格的な夏はまだもう少し先ではありますが、それでも既に各地で真夏日が記録されています。参考資料①の図表1は平成20(2008)年からの熱中症による救急搬送人員数を月別に示したものです。最も多くなるのは当然7月から8月ですが、6月でも毎年4、5千人は搬送されています。また不幸にして熱中症で亡くなる方の約6割は75歳以上の高齢者です(参考資料①の図表2参照)。

新型コロナウイルスの出現に伴い、今夏は①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや「三密(密集、密接、密閉)」を避ける等の対策を取り入れた生活様式を実践することが求められています。マスクを着用していると、心拍数や呼吸数、体感温度の上昇など、身体に負担がかかり、熱中症のリスクが高まります。したがって、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合には、マスクをはずすなど臨機応変の対応も必要です。またマスクをしていると水分摂取が不足気味となりますが、こまめな水分補給も大切です。

熱中症予防にはエアコンの活用が有効ですが、一般的な家庭用エアコンは、空気を循環させるだけで換気を行っていないことから、冷房時でも窓開放や換気扇によって換気を行う必要があります。換気により室内温度が高くなりがちなので、エアコンの温度設定を下げるなどの調整が必要です。屋外に居て直ぐに涼しい屋内に入ることができない場合には、屋外でも日陰や風通しの良い場所に移動してください。

定時の体温測定や健康チェックを行うなど、日頃からの健康管理と体力維持を心掛けて、新しい生活様式下で盛夏を乗り切りましょう。(事務局)

### 介護員の平均給与も6年連続で上昇

～前号に続き「賃金構造基本統計調査」から試算～

◆前号では3月31日に厚生労働省が公表した「令和元年賃金構造基本統計調査」から「保育士等(女)」の年間給与試算額について説明しましたが、今回は福祉施設介護員についてご説明します。なお福祉施設介護員については、平成16年(2004年)から集計されています。

前号の保育士と同様の方式で年齢階級別に算出した年間給与試算額は参考資料②の図表3です。統計上は男女それぞれに集計されていますが、紙面の関係からここでは女性について掲載しました。

全体の年間給与と試算額は平成26年から6年連続で上昇し、332万円となりました。平均勤続年数の伸びに加え、従来の処遇改善加算効果があったと考えられます。しかし年齢階級別では、25歳から34歳までは338万円、35歳59歳までは340万円台ということで、今回の調査では年齢階級における差がほとんどありませんでした。この理由としては、30歳代後半からはどの年齢階級においても、その平均勤続年数は7～8年前後となっていることが主な要因だと思われます。

年間給与と試算額を都道府県別に比較すると、最も高いのが東京都の386万円で、以下神奈川県、愛知県、千葉県、群馬県と続きます。逆に最も低かったのは長崎県の279万円で、以下鳥取県、佐賀県、愛媛県、山形県と続きます(参考資料②の図表4参照)。

ちなみに福祉施設介護員(男)の年間給与と試算額の平均は372万円で、45歳から49歳は400万円(平均勤続年数8.4年)となりました。また都道府県別に最も高かったのは東京都で420万円、最も低かったのは青森県で280万円でした。

全産業平均と比べるとまだ低いですが、徐々に改善されてきているとは言えます。(事務局)

◆開催を中止しておりました社会福祉法人会計入門講座について、新型コロナウイルス感染症の蔓延等を考慮し、本年はzoomを使用したオンラインでの開催を検討しております。日程等の詳細につきましては、決定次第メールやHPでお知らせさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

◆FAX NEWS (PowerPointにて制作) は下記URL総福研ホームページからダウンロードしていただけます。どうぞご利用下さいませ。◆

お知らせ



一般財団法人  
総合福祉研究会

本部事務局

TEL : 03-5961-6061  
FAX : 03-3915-2661

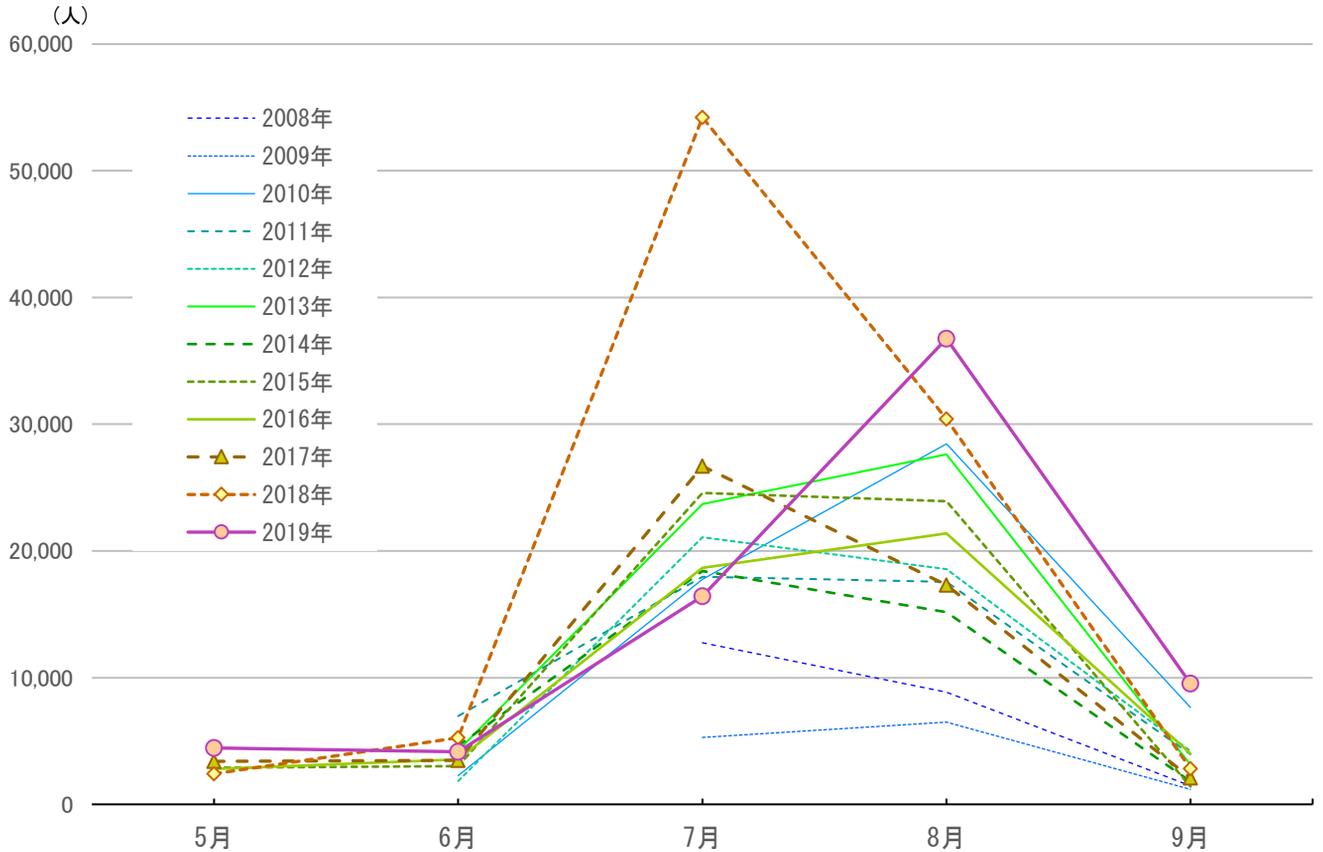
〒170-0004

東京都豊島区北大塚1丁目13-12 全経会館ビル2階

E-Mail info@sofukuken.gr.jp

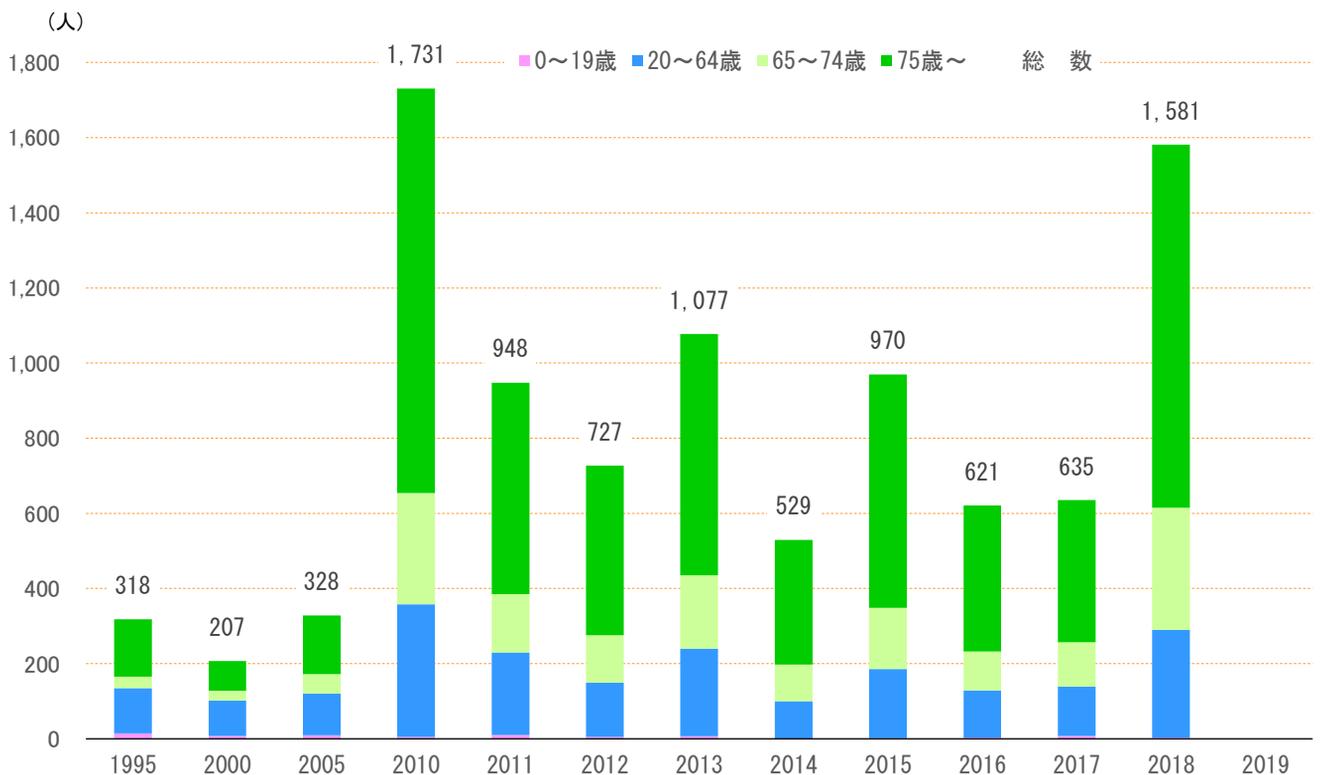
URL http://www.sofukuken.gr.jp/

◆図表1 熱中症による月別救急搬送人員数



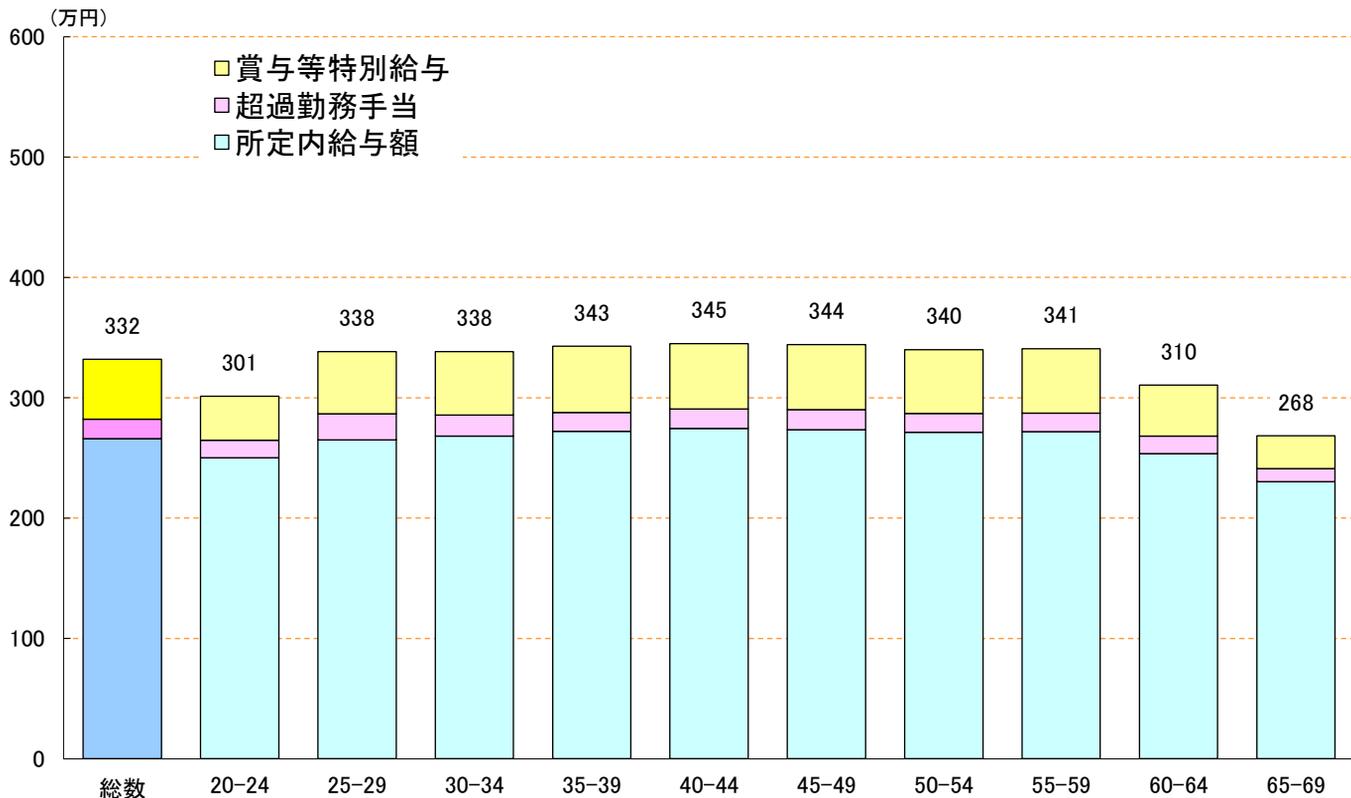
資料: 総務省消防庁「熱中症による救急搬送人員に関するデータ」から作成

◆図表2 熱中症死亡数(年齢4区分別)の推移



資料: 厚生労働省「熱中症による死亡数 人口動態統計(確定数)より」から作成

◆図表3 年齢階級別年間給与試算額:福祉施設介護員(女:令和元年)



◎ 年間給与(試算額)は、「きまって支給する現金給与額×12月+年間賞與其他特別給与額」で算出しました。

※ 総数には、(19歳以下及び)70歳以上を含みます。

資料:厚生労働省「令和元年賃金構造基礎調査」から試算、作成

◆図表4 都道府県別年間給与試算額:福祉施設介護員(女:令和元年)

